伝わる BP 発表会

９月３０日(金)②１年生、③2年生、④3年生の順で BP 発表会が行われました。今年度、北中に赴任し、なかなか練習風景を見ることもできなかったので、全学年全クラスの発表をみることができるこの機会がとても楽しみでした。(１年生からは手作りの招待状までいただきました。有難うございました。)

さて、全学年の発表を見て、一番に思ったこと。

それは、１つの作品を創り上げることの難しさとそのことがもつ価値の大きさです。終始全員が同じ動きをすることの難しさもあるでしょうが、合唱のパートの如く、動きに変化が組み込まれています。当然そこには独自性・創造性が必要です。自分たちらしさを考え、創り上げる。その上で部分の動き、全体の動きの調和を図る。2倍以上の難しさがあると思います。しかし、そこにこそ大きな価値があると言えます。

職員会資料の中に、『BP はクラス（仲間）を映す鏡』という表現とともに、「やっぱりこのクラスが一番だ！この仲間と BP ができて嬉しくてたまらない。」という感想が載っていました。

この取組についての意義や目標をクラス全員で確認しながら全員が本気になって取り組むこと、少しでもよくしたいという想いをもつこと、本番で成果を示そうとすること、こうした姿が示せるかどうかが、今のクラスの状況を映す鏡であり、やり切ることができれば格別の想いをもつことができる、ということだと思います。

どの学年のどのクラスの発表にも個性を感じました。その個性がこれからどのように成長していくのか楽しみにしています。

１ A

１ B

１ C

２ A

２ B

２ C

２ D

３ A

３ B

３ C